

① 河合隼雄 著

『河合隼雄のスクール
カウンセリング講演録』

(創元社)

河合氏と言えば京都大学教授、国際日本文化研究センター教授、文化庁長官等を歴任され、ユング心理学の第一人者として、あまりにも有名です。

本書は「学校臨床心理士全国研修会」での河合氏の基調講演を記録した物です。かなり前の事ですが、NHKテレビの心理学の講座で、河合氏が淡々と話をされるその内容の奥深さに、思わず引き込まれたのを覚えています。河合氏は2007年に逝去されましたが、本書を読んでいると、その暖かい語り口が、つい先日の事のように思い起こされます。特に教職を目指している方にオススメです。

371.43-Kaw (T.F.)

③ 丸山宏、伊従勉、高木博志 編

『みやこの近代』

(思文閣出版)

本書は2年にわたり京都新聞に連載されたものが加筆・修正を施され、まとめられたものです。新聞に掲載されていただけに、平易な文体で書かれています。専門分野の異なる研究者、総勢39人が、それぞれの切り口で京都の近代に迫ります。

美術・工芸・建築から政治、京都帝国大学での滝川事件の顛末に至るまで、歴史都市京都を考える上で興味深い話題が満載です。一味違った視点から京都への理解を深めてみませんか。

216.2-Miya (K.K.)



② バーバラ寺岡 著

『バーバラ寺岡の食害・薬害テロ時代
命は、こうして守れ!』

(防衛弘済会)

現在の日本は、残留農薬や残留ホルモンなどに汚染された輸入食品を口にせざるをえない状況にあります。私たちは自力で身を守らなくてはいけないのです。そこで本書の出番です。日本人はその昔から1,500種類もの動植物を(毒を持つフグでさえ)安全に食してきたそうです。ゆえに毒消し食材で身を守ることなど、日本人ならではの食に対する知恵が備わっているということです。本書は、おばあちゃんの知恵袋のような、生き残り食満載の情報本です。

498.5-Ter (N.K.)

④ 寺澤 盾 著

『英語の歴史:過去から未来への物語』

(中央公論新社)

英語を習い始めたとき、「keepの発音はなぜケーブじゃなくてキープなの?」と疑問に思われませんでしたか?これは、1400年頃からおよそ300年にわたって、長母音に規則的な音変化が生じたためなのです(大母音推移と言われています)。

このような英語の歴史のほか、差別的な表現を是正する動き(ポリティカル・コレクトネス)などをとりあげた現代の英語事情、そして未来の、ESLとEFLの話者数がENLのそれをはるかに上回るときの英語の姿などが分かりやすくコンパクトにまとめられています。

830.2-Ter (N.T.)